

## 人類史上最大の発明を使った“資産形成術”

**言**わずと知れた天才物理学者・アインシュタイン（アルベルト・アインシュタイン）。ノーベル物理学賞受賞者でもあり、相対性理論と言えば内容は分からなくても、多くの人が舌をべーと出した彼の写真を思い浮かべると思います。

（ちなみに、アインシュタインが特殊相対性理論の論文を発表したのはなんと26歳。舌を出した老年の写真が印象的ですが、やはり超・超・超天才だったんですね！）そんな、20世紀最大の天才と言われたアインシュタインが人類史上最大の発明と言った『**複利・ふくり**』。以前のコラムにも書きましたが、今回は実際に複利の効果を実感していただくことと、計算機で出来る複利の計算方法をお伝えいたします。お子さんがおられる方は一緒に計算器で遊びながら、遊んでください！（※遊んだ後に実行に移すと単なる遊びではなくなりますので、良ければご相談ください。）

**初**めに、簡単なクイズを出します。A子さんは1円を持っています。その1円は魔法の1円で、1日経つともう一枚増えて2円になります。そして、次の日には4円になります。次は4円が8円になります。次は8円が16円になります。1日毎に持っているお金が倍になっていきます。では、10日後にA子さんの

所持金はいくらになっていますか？単純な足し算です。出来れば頭の体操だと思って、暗算でしてみてください・・・・・・・・・・・・・・・・

Thinking time!

(注：初めの日を0日目と考え、1日目に1円が2円になったと計算する。)

2日目に4円、3日目に8円、4日目に16円、5日目に32円、6日目に64円、7日目に128円、8日目に256円、9日目に512円、10日目は1,024円。出来ましたか？繰り上がりの計算で少し頭使いますよね！ちなみに、この計算、2の10乗と一緒にすよね。

では、20日後は？1か月後は？恐らく、2の20乗や2の30乗を暗記している方は、一瞬で20日後や30日後の数字にビックリすると思います。というか、20日後はまあまあのビックリだと思いますが、30日後の数字には目が飛び出してしまうと思います。まだ計算機は使わずに、ここからは紙に書いて計算（足し算 or 掛け算）して見てください・・・・・・・・・・・・・・・・

Thinking time!

どうでしたか？ビックリしましたか？30日目の数字を読み上げる時は改めて、位（くらい）を確認してしまいませんか？魔法の1円が欲しくなりますよね～。とその前に、答え合わせをしておきましょう！20日後は1,048,576円。30日後は1,073,741,824円。毎日所持金が2倍になるのは極端ですが、**これ**

が複利の効果です。実感していただけましたか？

**次**に、計算機で簡単にできる複利の計算について、書いていきます。またまたその前に、複利について簡単に復習しておきましょう。複利とはそもそも何？  
たとえば、元金（さっきのクイズでは1円）に金利が付き、元金+金利（2円）になる。元金+金利を仮に新元金とすれば、次は新元金に対して金利が付く。金利がさらに金利を生む仕組みです。それに対して単利はいつまでも元金に対してしか金利は付かず、30日後も1円が31円になるだけです。大~~~~~きな差ですよ。アインシュタインが**人類史上最大の発明**と言うだけありますよね。

では、計算機で遊んでいきましょう。例えば、年利6%の複利の商品に100万円を預けた場合、10年後にいくらになっているか？を計算機で正確に計算してみます。ちなみに、「72『ななじゅうに・なにわの』の法則」、元金が2倍になる期間を出す計算式については、以前お届けしたコラムのどこかに書いてあったと思うので、詳細は割愛します。（ $72 \div \text{年利} = \text{元金が倍になるまでの年数}$ ）6%複利の商品であれば、 $72 \div 6\% = 12$ 年。つまり、6%複利の商品に仮に100万円預けたら、12年間で200万円になるということです。計算機でもやってみましょう！まず、年利6%の複利計算手順①1.06を押す。（1

年後に1.06倍になるという意味) ②×(掛ける)を2回押す。(複利計算の場合2回押す) ③1,000,000を押す。(預け入れる元金) ④=(イコール)を押す。ここで出た数字・1,060,000円が1年後に殖えた元金+金利です。⑤=(イコール)を押す。ここで出た数字・1,123,600円が2年後です。3,600円が複利の効果です。⑥あとは、イコールを押すたびに更に1年後の数字になります。10回押すと、10年後の数字が出ます。1,790,847円です。

簡単ですよ。12年後は2,012,196円になります。「72の法則」も多少の誤差はありますが、きちんと当てはまります。年利2%の商品であれば①で1.02を押す。現在の普通預金金利0.001%であれば、1.00001を押す。色々な数字(年利)で計算して遊んでみてください。期間をきっちり取ることで、1%の金利差が将来の資産形成に大きな差をもたらすことが分かると思います。楽しく遊べましたか?ワクワクしましたか?

**魔法**の1円は実際には存在しませんが、それと同じ仕組みを持つことは可能です。これも以前のコラムに書いた内容ですが、1980年代後半から1990年代前半の銀行の10年定期預金金利は6~7%ありました。もちろん複利です。つまり先程の『72の法則』の際に記した10年程度で元金が2倍になっていたということです。これと同じ商品は現在の低金利時代(上記定期預金金利

0.01%)の日本には存在しませんが、低金利時代でも資産を殖やすことは可能です。まずは少額の投資からでも初めてみて、経験を積むことをお勧めします。その経験が将来現役を退職された時に手にする退職金（多くの人にとって最大の運用資金）の運用先や運用方法を決定する、しなくてはいけない時の糧になります。退職金でやってはいけない事もありますので、詳細は別の機会に掲載しますが、大きく2つあります。1つは将来のインフレを全く考慮しない預金。そしてもう1つは残債期間の短い住宅ローンの返済です。

20世紀最大の天才=アインシュタインから学び、計算機で遊んだあとは、実際に実行するかどうかです。人類史上最大の資産形成か、自己流の資産形成か？

**今後あなたは年利何%の商品で資産形成しますか？**

※なお、本文中の説明は、利息にかかる税金は考慮していません。

SL2611-3220-9396  
ソニー生命保険(株) 大分支社  
〒 870-0029 大分市高砂町 2-50  
オアシスひろば 21 9階  
TEL 097-532-9200  
ライフプランナー 山田新悟